2018年12月20日
FD 委員会

2018 年度前期 学部授業アンケートのサマリー

1. はじめに

平素は本学のFD 活動にご協力いただき感謝申し上げます。2018 年度前期の授業アンケートも無事終了し、その一部をサマリーとしてまとめました。今回は、学生の満足度を上げるための要因を教養科目と専門科目に分けて検討しました。

2. 実施状況と分析の対象

はじめに、実施率・回収率をそれぞれ表 1・表 2 に示します。
表 1 を見ると、実施率は講義・演習科目で 92.02%、実験科目で 74.63%となっています。
また、表 2 を見ると、回収率は講義・演習科目は 85.84% 実験科目は 78.64% となっています。
実施率・回収率ともにどちらも高い数値になっていることがわかります。

2017 年度前期と 2018 年度前期の講義・演習科目の実施率を比べてみると、講義・演習科目の 2017 年度前期は 94.50 %、2018 年度前期は 93.02%、実験科目の2017年度前期は75.61%、2018年度前期は 74.63% であり、どちらも2017年度に比べて2018年度はやや下がっています。

また、実施されなかった科目の149件のうち、そのおよそ半分の78件がゼミナール系科目です。ゼミナール系科目は、アンケートの内容が科目内容と合っていなかったり、少人数であったりするため、アンケートを実施しづらいと考えられます。

実施率をさらに上げるためには、ゼミナール系科目でのアンケートの内容 ・ 実施方法を見直す必要があります。この件につきましては、現在、FD 委員会にて検討しているところです。
今回の分析では 74,286 枚の回答うちの、データ欠損のあるものを除いたもの 71,009 枚を用いました。

表 1: 実施科目数と実施率

(a) 講義・演習

	対象科目数[件]	実施科目数[件]	実施率[%]
2018 年度前期	1,442	1,327	92.02
2017 年度後期	1,231	1,123	91.23
2017 年度前期	1,436	1,357	94.50

(b) 実験

	対象科目数[件]	実施科目数[件]	実施率[%]
2018 年度前期	134	100	74.63
2017 年度後期	188	164	87.23
2017 年度前期	123	93	75.61

表 2: 回収枚数と回収率

(a) 講義・演習

	履修登録者延べ数[枚]	回収枚数[枚]	回収率[%]
2018 年度前期	81,589	70,040	85.84
2017 年度後期	61,900	48,759	78.77
2017 年度前期	83,487	69,772	83.51

(b) 実験

	履修登録者延べ数[枚]	回収枚数[枚]	回収率[%]
2018 年度前期	5,399	4,246	78.64
2017 年度後期	8,577	6,580	76.72
2017 年度前期	4,821	3,935	81.62

3. まとめ

2018 年度前期の授業アンケートの結果について、学生の成長度と満足度に影響を与える要因について、教養科目と専門科目に分けて分析してみました。結果として、教養科目・専門科目共に、定性的にはこれまでと同様の結果を得ました。

因子負荷量については、わずかではありますが、教養科目と専門科目で異なる結果を得ました。
最も満足度に影響している第1因子「教員の授業の進め方・熱意」の因子負荷量を見てみると、教養科目・専門科目共に、設問8「考え方・説明の工夫がよくなされていた」が最も因子負荷量が大きいものでしたが、2番目に因子負荷量が大きいものは、教養科目では、第1因子の設問10「学生の質問や作業、発表に対して教員は十分にフォローしてくれた」でしたが、専門科目では設問9「板書やスクリーンに示された内容は理解を深める適切なものであった」でした。

したがって、授業改善の際には、まずは設問8「考え方・説明の工夫がよくなされていた」の内容に重点を行うことは、教養科目・専門科目共に同じですが、次に教養科目は設問10「学生の質問や作業、発表に対して教員は十分にフォローしてくれた」を、専門科目は設問9「板書やスクリーンに示された内容は理解を深める適切なものであった」の内容に重点を置いて改善していくと良いと考えられます。

また、教養科目の設問2「宿題や課題なども含め授業時間以外に自分で学習する時間を確保した」の第3因子への負荷量と、設問4「学習を進めるにあたって図書館・オフィスアワー・授業支援システム・教員・友人など様々な大学の施設・システムまた人的資源を活用した」の第1因子の負荷量が、負の値で専門科目よりも絶対値が大きくなっていますが、学習時間の確保の観点からは、教養科目においても、事前・事後学習は必要です。

満足度を上げるために、授業時間外に学習しなくても、授業内の学習だけでわかる内容に留めるのではなく、専門科目に興味持っている学生に、専門内容とは直接関係のない教養科目を学ぶことの意味や、教養科目においても授業時間外に学習をさせることの重要性をよく理解させることが重要なのではないかと考えています。